

研究だより

No. 5

押水第一小学校

令和4年 7月 8日

7月5日 すみれ研究授業(松田先生)より

松田先生に国語「主語と述語に気をつけよう」の授業をして頂きました。整理会で成果・課題・改善策について話し合いました。

視点1:友達と対話し、課題を解決するために、考えを交流する場では、文の中の主語と述語の確認や、その関係に気付くことができる。そのために、切り返しや問い返しの発問をする。

成果	<ul style="list-style-type: none">・「主語」「述語」を色分けして提示し、視覚的にも区別しやすくなっていた。効果的にICTを活用していた。・児童のつぶやきをしっかりと認め、広めることができていた。 (「松田先生 黒板をけす」⇒「松田先生 が 黒板をけす」)
課題	<ul style="list-style-type: none">・実態に応じてねらいを決めるとよい。「写真にぴったりの文を作ろう」などに設定し、※松田先生が水を()。⇒ やる のむ こぼす などの選択肢を与え、選ばせる。・授業の中で子ども同士の学び合いの場があるとよい。座ってばかりではなく、動作化などの動きを取り入れ、文作りを行うようにする。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・授業の中で動きを取り入れ、子ども同士が学び合うために、くじ引きなどで主語 述語のカード引き、動作化して文作りを行う。1つの文から主語や述語を変えていろいろな文を作れるようにする。

視点2:本時の学びを自覚するために、毎時間適用問題に取り組めるようにし、より確実に主語と述語を使って書いたり話したりできるようにする。

成果	<ul style="list-style-type: none">・適用題を「学級通信で分かりやすい文を書く」ことに設定し、相手意識を持って授業に取り組むことができた。・適用問題の場面でも、本時で学んだ「主語」「述語」の用語を押さえ、既習にも戻り、丁寧に声かけができていた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・写真を見て文作りを行う時は、語彙を増やすチャンスにもなるため、様々な言葉にも触れられるようにしていく。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・一度文を書かせ、正しい言葉や写真にぴったりの言葉が他にもないかを考えさせるとよい。語彙が少ない場合は、教えたり選択肢を与えたりする。

↓

(明日から全員が実践すること)

◎児童の実態に合わせた課題を設定し、ユニバーサルデザインで授業を行う。